

# 大学院特別講義

(医歯学先端研究特論) (生命理工学先端研究特論)  
(医歯理工学先端研究特論)

下記により大学院特別講義を行いますので、多数ご来聴下さい。

## 記

- 1 . 講 師 日本大学歯学部歯科補綴学教室局部床義歯学講座  
診療教授 豊間 均
- 2 . 演 題 長期経過症例 ( 15-30 年 ) から部分床義歯を再考する
- 3 . 日 時 平成 2 4 年 1 1 月 1 6 日 (金)  
1 5 時 0 0 分 ~ 1 7 時 0 0 分
- 4 . 場 所 歯学部特別講堂 ( 歯科棟南 4 階 )
- 5 . 内 容

我が国の平均寿命と高齢化社会を考えると部分欠損患者の増加が予想され、部分床義歯の役割は極めて重要になる。部分床義歯を装着することにより下顎位の長期保全を図り、顎口腔系全体の調和を保つことは、総義歯年齢を遅延させることと共に患者の健康維持と QOL の向上に不可欠である。

しかし、部分床義歯の予後は、欠損歯数や欠損部位などにより、その咬合状態が多種多様であることや、歯と顎堤の支持機構の違い、咬合接触の経時的変化、さらに患者の口腔衛生や組織抵抗性の違いなど様々な因子に影響されるため、義歯装着時の状態を長期に維持することは難しい面も多々あり、顎口腔の長期の維持安定を図るには総合的な診査、診断能力、治療技術およびメンテナンスが不可欠になる。

したがって、より良好な予後を得るためには義歯装着後の経過観察を行い、その結果を十分に検討し、後の治療方針にフィードバックしていく必要がある。

そこで、部分床義歯を長期間装着した場合、残存組織や義歯自体にどのような変化や問題点が生じるかを、また、その対応策と限界について長期経過症例から皆様とともに再考したいと思います。

連絡先 歯科医療行動科学分野 新田 浩 (内線 5479)